

## みんなが集う「もう一つの家」

### ～小幡町みんなのカフェ～

**五個荘小幡町**は、人口902人、332世帯で、高齢化率約28.6%の自治会である。平成31年(2019)3月から「小幡町みんなのカフェ」がボランティアにより月1回、小幡町公会堂で開催されている。カフェをきっかけに、小幡町の小学生たちが公会堂に“帰宅”し、宿題をしたり遊んだりする姿が小幡町の光景となっている。

#### 1. 「小幡町みんなのカフェ」再開

令和2年(2020)10月21日(水)に、3月からコロナ禍で休止していた「小幡町みんなのカフェ」(以下、カフェ)が7か月ぶりに再開された。

この日参加したのは女性6名、男性1名の合計7名であった。

公会堂の広間に用意された席に着くと、カフェボランティアの森藤あさ子さんが準備した「ウエルカムドリンク」をいただきながら世間話に花を咲かせる。

午後1時30分を少し回ったころ、同じくカフェボランティアの大橋久子さんが参加者に「コロナ禍で中止していたカフェを久しぶりに再開します。やっぱり話すことは大切ですね。」と語りかけ、サロンがスタート。



参加者に語りかける大橋さん

大橋さんは、五個荘小幡町(以下、小幡町)の民生委員・児童委員。そして、介護予防運動指導員・リズム体操指導員、高齢者生活体力づくりリーダーで介護福祉士である。他の自治会のサロンでも活躍している。

「指の体操」から始まり、踵を上げ下げする「足の体操」、椅子に座ったまま両足を交互に上下させて「歩く」運動。さらに「歩く」運動をしながら、大橋さんの「数字を順番に読み上げるので、3の倍数になったら手を叩きましょう」の声に、3の倍数で手を叩く。

最後は、タオルを使った運動。タオルの両端をもって体にタオルをくぐらせる。そして、タオルの真ん中と両端2か所を結わえて、放り投げキャッチする。みんな一生懸命である。

体操が終わり、森藤さんに交替し、一人ひとりに準備された茶器で抹茶を立てる。その後、



色とりどりのタオルが宙を舞う



抹茶をたてる森藤さん

「頭の体操」「似ている漢字探し」や「二字熟語タテヨコナナメ」などの問題に取り組む。答え合わせでは「やっぱりそうや」とか「ああ～」といった声が飛び交う。これで、この日のカフェは閉会となり、参加者は見送られながら帰路についた。

## 2. カフェ開始のきっかけ

85歳の独居高齢者宅の新聞受けに3日分の新聞が溜まっているという通報を受けた警察官が開錠して家に入ったところ、転倒して動けなくなっていて、緊急搬送されたという出来事があった。

この出来事に危機感を感じた森藤さん、大橋さんら5人が自治会内の気になる人や心配な人について「見守り会議」を開催した。そして、世代を越えて自治会の皆さんのが参加できるカフェを開催し、どんな見守りが必要なのか考えるきっかけにしようと「小幡町みんなのカフェ」を開催することにした。

第1回目の平成31年（2019）3月3日の日



2019年4月10日（水）に開催したカフェの様子

曜日には53名が参加してくれた。子どもも2人が来てくれた。

これを皮切りに毎月開店。カフェとふれあいサロンを合同で開催するときもあり、1回平均約40名が“来店”してくれた。

1回100円の参加費を頂いているが、予算は厳しい。そんな中、今年度から東近江市社協が「ふれあいサロン」の助成の対象してくれ、一息つけた。しかし、令和2年（2020）3月にコロナ禍で中止となった。

## 3. カフェの嬉しい展開

公会堂は月・水・金曜日の週3日、午後1時から5時まで開いている。

カフェは月1回水曜日に開店しているが、毎月参加している子どもたちがカフェ以外の日にも公会堂に「下校」し、宿題をしたり、遊んだりするようになった。

遊んだ後は、自治会でストックしているジュースで一息つく子どもたちの姿が見られ、賑やかな時間が流れる。

小幡町でも核家族が多く、祖父母と同居している子どもたちも少なくなった。

そんな中で、約30人の子どもたちが月1回「ただいま！」と言って公会堂で宿題をしたり公会堂に隣接する公園で走りまわったりする姿が、五個荘小幡町の光景となっていました。

しかし、この姿もコロナ禍でなくなった。

小幡町の「みんな」が集う、もう一つの家。子どもたちも交えてカフェを1日でも早く再開できることが、「みんな」の願いだ。



五個荘小幡町公会堂